

京都工芸繊維大学工芸科学研究科の専攻の設置計画の概要

事前相談事項 教員審査の省略 認可又は届出

名称	京 都 工 芸 繊 維 大 学				設置者	国立大学法人 京都工芸繊維大学				開設予定年度	平成18年度	
位置	京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地							計画の種類	研究科の専攻の設置			
計	既 設 研 究 科 等						新 規 研 究 科 等					
	研究科・専攻名	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	研究科等の種類	研究科・専攻名	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	研究科等の種類
画 の 概 要	大学院工芸科学研究科 (博士前期課程)	人	人	人			大学院工芸科学研究科 (博士前期課程)	人	人	人		
	機械システム工学専攻	34		68	修士(工学)	工学関係	応用生物学専攻	35		70	修士(農学)	農学関係
	電子情報工学専攻	40		80	修士(工学)	工学関係	生体分子工学専攻	35		70	修士(工学)	工学関係
	物質工学専攻	42		84	修士(工学)	工学関係	高分子機能工学専攻	35		70	修士(工学)	工学関係
	造形工学専攻	32		64	修士(工学)	工学関係	物質工学専攻	45		90	修士(工学)	工学関係
	建築設計学専攻	15		30	修士(建築設計)	工学関係	電子システム工学専攻	30		60	修士(工学)	工学関係
	応用生物学専攻	34		68	修士(農学)	農学関係	情報工学専攻	30		60	修士(工学)	工学関係
	高分子学専攻	34		68	修士(工学)	工学関係	機械システム工学専攻	40		80	修士(工学)	工学関係
	デザイン経営工学専攻	10		20	修士(工学)	工学関係	デザイン経営工学専攻	14		28	修士(工学)	工学関係
	先端ファイブ科学専攻	22		44	修士(工学)	工学関係	造形工学専攻	25		50	修士(工学)	工学関係
	計	263		526			デザイン科学専攻	14		28	修士(工学)	工学関係
							建築設計学専攻	20		40	修士(建築設計)	工学関係
							先端ファイブ科学専攻	22		44	修士(工学)	工学関係
							計	345		690		
		(博士後期課程)					(博士後期課程)					
	機能科学専攻	17		51	博士(工学)	工学関係	生命物質科学専攻	18		54	博士(工学)	工学関係
	材料科学専攻	10		30	又は	工学関係	設計工学専攻	10		30	又は	工学関係
	情報・生産科学専攻	9		27	博士(学術)	工学関係	造形科学専攻	8		24	博士(学術)	工学関係
	先端ファイブ科学専攻	10		30		工学関係	先端ファイブ科学専攻	10		30		工学関係
	計	46		138			計	46		138		
備 考	・平成18年4月から学生募集を停止し、在学生の修了を待って廃止。 電子情報工学専攻(M) (40名) 高分子学専攻(M) (34名) 機能科学専攻(D) (17名) 材料科学専攻(D) (10名) 情報・生産科学専攻(D) (9名)											

教 員 組 織 (専 任 の み)	既設研究科等	現 員		新規研究科等	計 画		そ の 他				
		専任教員数	うち教授		専任教員数	うち教授					
		人	人		人	人					
	大学院工芸科学研究科 (博士前期課程)			大学院工芸科学研究科 (博士前期課程)							
	機械システム工学専攻	27	15	応用生物学専攻	27	15	1	1	応用生物学専攻から	27(うち教授15)人	
	電子情報工学専攻	42	23	生体分子工学専攻	15	7	2	・	研究指導教員数	9(うち教授9)人	
	物質工学専攻	29	18	高分子機能工学専攻	18	9	3	・	研究指導補助教員数	18(うち教授6)人	
	造形工学専攻	28	13	物質工学専攻	24	14	4				
	建築設計学専攻	10	5	電子システム工学専攻	21	12	5	2	2	応用生物学専攻から	2(うち教授1)人
	応用生物学専攻	31	17	情報工学専攻	19	9	6				
	高分子学専攻	33	16	機械システム工学専攻	24	10	7	・	研究指導教員数	7(うち教授7)人	
	デザイン経営工学専攻	11	6	デザイン経営工学専攻	9	5	8	・	研究指導補助教員数	8(うち教授0)人	
	先端ファイブ科学専攻	13	8	造形工学専攻	20	9	9				
	計	224	121	デザイン科学専攻	10	5	10	3	3	高分子学専攻から	18(うち教授9)人
				建築設計学専攻	8	4	11	・	研究指導教員数	8(うち教授8)人	
				先端ファイブ科学専攻	10	5	12	・	研究指導補助教員数	10(うち教授1)人	
				計	205	104					
	(博士後期課程)			(博士後期課程)							
	機能科学専攻	103	52	生命物質科学専攻	65	38	13	4	4	物質工学専攻から	24(うち教授14)人
	材料科学専攻	36	24	設計工学専攻	54	29	14	・	研究指導教員数	12(うち教授12)人	
	情報・生産科学専攻	61	33	造形科学専攻	27	13	15	・	研究指導補助教員数	12(うち教授2)人	
	先端ファイブ科学専攻	14	9	先端ファイブ科学専攻	10	5	16	5	5	電子情報工学専攻から	21(うち教授12)人
	計	214	118	計	156	85		・	研究指導教員数	11(うち教授11)人	
								・	研究指導補助教員数	10(うち教授1)人	

						6 電子情報工学専攻から 19 (うち教授 9)人 ・研究指導教員数 8 (うち教授 8)人 ・研究指導補助教員数 11 (うち教授 1)人
						7 機械システム工学専攻から 24 (うち教授 10)人 ・研究指導教員数 9 (うち教授 9)人 ・研究指導補助教員数 15 (うち教授 1)人
						8 デザイン経営工学専攻から 9 (うち教授 5)人 ・研究指導教員数 6 (うち教授 5)人 ・研究指導補助教員数 3 (うち教授 0)人
						9 新規採用 2 (うち教授 1)人 造形工学専攻から 18 (うち教授 8)人 ・研究指導教員数 6 (うち教授 6)人 ・研究指導補助教員数 14 (うち教授 3)人
						10 新規採用 1 (うち教授 1)人 造形工学専攻から 9 (うち教授 4)人 ・研究指導教員数 4 (うち教授 4)人 ・研究指導補助教員数 6 (うち教授 1)人
						11 新規採用 1 (うち教授 1)人 造形工学専攻から 7 (うち教授 3)人 ・研究指導教員数 4 (うち教授 4)人 ・研究指導補助教員数 4 (うち教授 0)人
						12 新規採用 4 (うち教授 2)人 先端バイオ科学専攻から 6 (うち教授 3)人 ・研究指導教員数 7 (うち教授 5)人 ・研究指導補助教員数 3 (うち教授 0)人
						13 機能科学専攻から 46 (うち教授 25)人 材料科学専攻から 19 (うち教授 13)人 ・研究指導教員数 33 (うち教授 33)人 ・研究指導補助教員数 32 (うち教授 5)人
						14 機能科学専攻から 6 (うち教授 3)人 材料科学専攻から 6 (うち教授 4)人 情報・生産科学専攻から 42 (うち教授 22)人 ・研究指導教員数 28 (うち教授 28)人 ・研究指導補助教員数 26 (うち教授 1)人
						15 新規採用 2 (うち教授 2)人 機能科学専攻から 25 (うち教授 11)人 ・研究指導教員数 12 (うち教授 12)人 ・研究指導補助教員数 15 (うち教授 1)人
						16 新規採用 4 (うち教授 2)人 先端バイオ科学専攻から 6 (うち教授 3)人 ・研究指導教員数 7 (うち教授 5)人 ・研究指導補助教員数 3 (うち教授 0)人
	計			計		

既設 研 科 等 の 概 要	研究科・専攻名	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	研究科等の種類	教 員 数		備 考
							専任教員数	うち教授	
	大学院工芸科学研究科 (博士前期課程)	人	人	人			人	人	
	応用生物学専攻	35		70	修士(農学)	農学関係	27	15	
	生体分子工学専攻	35		70	修士(工学)	工学関係	15	7	平成18年度開設予定
	高分子機能工学専攻	35		70	修士(工学)	工学関係	18	9	平成18年度開設予定
	物質工学専攻	45		90	修士(工学)	工学関係	24	14	
	電子システム工学専攻	30		60	修士(工学)	工学関係	21	12	平成18年度開設予定
	情報工学専攻	30		60	修士(工学)	工学関係	19	9	平成18年度開設予定
	機械システム工学専攻	40		80	修士(工学)	工学関係	24	10	
	デザイン経営工学専攻	14		28	修士(工学)	工学関係	9	5	
	造形工学専攻	25		50	修士(工学)	工学関係	20	9	
	デザイン科学専攻	14		28	修士(工学)	工学関係	10	5	平成18年度開設予定
	建築設計学専攻	20		40	修士(建築設計学)	工学関係	8	4	
	先端ファイブ科学専攻	22		44	修士(工学)	工学関係	10	5	
	計	345		690			205	104	
	(博士後期課程)								
	生命物質科学専攻	18		54	博士(工学)	工学関係	65	38	平成18年度開設予定
	設計工学専攻	10		30	又は	工学関係	54	29	平成18年度開設予定
	造形科学専攻	8		24	博士(学術)	工学関係	27	13	平成18年度開設予定
	先端ファイブ科学専攻	10		30		工学関係	10	5	
	計	46		138			156	85	

校地	専用	190,101㎡	共用	㎡	共用する他の学校等の専用	㎡	合計	190,101㎡	(共用する学校の名称)
校舎	専用	95,390㎡	共用	㎡	共用する他の学校等の専用	㎡	合計	95,390㎡	
当該設置に係る決議等	平成17年 6月20日 (決議・決議予定)			役員会決議			平成17年 6月20日 (決議・決議予定)		教育研究評議会決議

設 置 の 趣 旨 等 の 概 要	<p>設置の趣旨及び必要性</p> <p>(a)教育研究上の理念、目的</p> <p>本学の理念や長期ビジョンに掲げる「21世紀の産業と文化を創出する『個性的で感性豊かな国際的工科大』づくり」を目指して大学院の充実を図るとともに、科学技術の進展や社会の要請に応えるため、大学院が担うべき人材養成機能の役割を踏まえた教育研究を展開する。</p> <p>〔前期課程〕</p> <p>(1) 高度な専門的知識・能力を持ち、柔軟で応用力のある21世紀の社会を切り拓く高度専門技術者(工科大系人材)の養成を主眼とする。</p> <p>(2) 実践的外国語能力を備えた国際的に通用する高度専門技術者の養成</p> <p>〔後期課程〕</p> <p>(1) 創造性豊かな優れた研究・開発能力を有し、自立して研究活動が行える研究者、開発技術者の養成</p> <p>(2) 実践的外国語能力や国際経験を有し、国際舞台で活躍できる研究者等の養成</p> <p>(b)どのような人材を育成するのか(卒業後の進路をどう考えるのか)</p> <p>〔博士前期課程〕</p> <p>「応用生物学専攻」</p> <ul style="list-style-type: none"> バイオテクノロジーを積極的に利用して、生命現象そのものの解明を行うと同時に、ベターライフ・ベターリビングに関わる技術開発を行い、新しい時代を担い上げる研究者・技術者の育成を目指す。修了後は、製薬、食品などの産業分野において高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。 <p>「生体分子工学専攻」</p> <ul style="list-style-type: none"> 生体分子の化学と工学に関して十分な基礎知識をもち、生体分子の応用化学、人工分子の生体応用、生体プロセスの機能模倣などの応用能力を身につけ、研究技術者として人間的に広く深い素養と自覚、国際性を併せもつ人材の育成を目指す。修了後は、製薬、医用工学、環境化学などにおいて高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。 <p>「高分子機能工学専攻」</p> <ul style="list-style-type: none"> 機能性物質や高分子機能工学に関する基礎知識と幅広い視点からの洞察力を養わせることを主眼として、研究経験に基づく応用能力を身につけさせ、高い指導能力や研究技術者として人間的に広く深い素養と自覚ならびに国際性を併せもつ人材の育成を目指す。修了後は、石油、繊維、化学工業などにおいて高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。 <p>「物質工学専攻」</p> <ul style="list-style-type: none"> 物質の構造、機能、変換の原理の解明及び新機能性物質、新素材の開発を目指した教育研究を行い、自然との調和を念頭に置き、自ら考え、追求する創造力豊かな技術者・研究者の育成を図る。修了後は、ガラス、セラミックス、新素材などの分野において高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。 <p>「電子システム工学専攻」</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子技術を発展させ、自然と人間の調和を図るヒューマンテクノロジーの開拓を目指す人材の育成。修了後は、電力会社、カメラ、家電などにおいて高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。 <p>「情報工学専攻」</p> <ul style="list-style-type: none"> 21世紀の人間社会の基盤をなす情報技術を発展させ、ヒューマン・サイエンスを構築できる人材の育成。修了後は、通信、情報、家電、金融などにおいて高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。 <p>「機械システム工学専攻」</p> <ul style="list-style-type: none"> 人と地球にやさしい21世紀の実現に向け、創立精神のK I T M I N Dの精神に立脚し、これまでの伝統的な機械技術を柱としながも、コンピュータを含む最先端の科学・技術を用いて、人間環境調和型のあたらしい機械の開発やシステムの構築ができる人材の育成。修了
---	---

後は、車、車両、機械、住宅設備、福祉機器などにおいて高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。

「デザイン経営工学専攻」

- ・商品としての製品や空間を作り出すための構想からマーケティング、設計、生産、流通にいたる一連のプロセスに関する広い視野をもち、社会と産業に貢献し、生活環境の革新を担う人材の育成。修了後は、家電、コンピュータ機器、カメラメーカーなどにおいて企業I Dやビジネスデザインなどの高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。

「造形工学専攻」

- ・造形工学、造形文化、建築に関わる理論、デザイン史・技術史、計画・製作理論、工学技術理論を教育・研究し、これらを通して、より専門的で高度な学識と研究能力または実務応用力を有する人材を育成。修了後は、住宅産業、不動産、広告宣伝業、官公庁などにおいて高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。

「デザイン科学専攻」

- ・地域・産業のブランド化、生活環境を豊かに彩る機器・情報デザイン、映像情報デザインなどのデザイン理論知識と表現技術の両面を備え、21世紀の豊かな暮らしをデザインする高度専門職業人を育成。修了後は、家電、車、映像、マスコミなどにおいて高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。

「建築設計学専攻」

- ・経済・産業の活性化に寄与するとともに、地球環境に配慮し、長寿命、環境共生、省エネルギー、文化の継承などを背景とした21世紀の豊かな生活空間環境づくりを具体的にデザインする高度建築設計専門職業人を育成。修了後は、建設業、設計事務所などにおいて高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。

「先端ファイブロ科学専攻」

- ・ファイブロ材料を理解し、高度な専門性と研究能力を備え、多方面の分野に柔軟に対応できる専門技術者を育成。修了後は、繊維関連企業、化学関連企業、その他各種製造業、試験研究機関などにおいて高度専門技術者としての活躍が期待される。また、一部は博士後期課程に進学して研究者等の道を目指す。

〔博士後期課程〕

「生命物質科学専攻」

- ・分子および分子集合体の構造と機能発現メカニズムとの関係、高分子物質・結晶性およびアモルファス無機物質の複雑多様な構造と高次機能発現メカニズムとの関係、生物の集団・個体・組織・細胞・分子の各レベルにおいて発現される生命機能などの解明を通じて、高度な機能をもつ物質・材料の創成や長寿健康に貢献しうる人材の育成。修了後は、大学、民間企業研究部門などにおいて活躍が期待される。

「設計工学専攻」

- ・現代社会の産業技術をリードできる学識と実践技術を身につけた工学者の育成を目標としている。工学技術の先端研究を切り開くための精神力と社会動向に鋭い感性をもち、個人的能力にとどまらず、組織を管理運営できるリーダーシップをもつ人材の育成。修了後は、民間企業研究部門、大学、自治体などにおいて活躍が期待される。

「造形科学専攻」

- ・人間の美的感性の造形的具象化の歴史・理論・方法、及び造形デザインの実践的な理論と応用を、人間が生産した事物の機能と対比させつつ考究する。また、建築・都市空間の機能の望ましいあり方、設計・創造等を実践するための理論と応用に関する教育研究を通して、高等教育機関の教員、研究者ならびに時代をリードする理論を備えたデザイナー・建築家となる人材を育成。修了後は、大学、官公庁などにおいて活躍が期待される。

「先端ファイブロ科学専攻」

- ・材料や素材の機能創成と感性評価の両面をリンクさせて研究開発を進め、将来に花咲く技術革新のシーズを積極的に社会・産業界に提供することを目指している。博士前期課程で培われた専門性と研究能力を基盤として、本課程において独創的で高度な研究を遂行し、複合新領域分野の開発技術者として独創的で柔軟な研究開発能力を有する人材を育成する。また、外国語教育を通じて国際性豊かな人材の養成に努める。修了後は、自治体、研究所、民間企業などにおいて活躍が期待される。

教育課程（専攻）編成の考え方

〔博士前期課程〕

- (1) 博士前期課程は、主として高度な専門的知識・能力を持つ高度専門技術者の養成を行う課程と位置付け、各専攻をそれぞれ教育プログラムとして展開することにより専門分野をより明確にするため、既設の9専攻を12専攻に再編する。

- (2) 再編・設置する専攻の概要

「応用生物学専攻」

- ・バイオテクノロジーを積極的に利用し、生命現象そのものの解析を行うと同時に、ペターライフ・ペターリビングに関わる技術開発能力を育成する教育を展開する。

「生体分子工学専攻」

- ・生命科学研究の工学的展開の重要性を踏まえ、既設の応用生物学専攻、物質工学専攻、高分子工学専攻の関連分野において蓄積されてきた成果を集約し、生体分子の応用化学、人工分子の生体応用、生体プロセスの応用能力などに関する能力を育成する教育を展開する。

「高分子機能工学専攻」

- ・既設の高分子工学専攻を再編し、高分子の持つ多彩な構造や機能の解明などに深化させた教育を展開する。

「物質工学専攻」

- ・物質の構造、機能、変換の原理の解明及び新機能的物質、新素材の開発能力に関する能力を育成する教育を展開する。

「電子システム工学専攻」

- ・既設の電子情報工学専攻を再編し、半導体デバイス、電子材料の開発、特にワイドギャップ半導体、超伝導、ナノチューブなど新素材の応用、極微小構造をもつ電子材料の制作、X線、レーザーによる評価技術の開発などに関する能力を育成する教育を展開する。

「情報工学専攻」

- ・既設の電子情報工学専攻を再編し、ロバスト制御、ニューラルネット、画像復元技術、医用画像処理、情報セキュリティ技術など学識に基礎をおく教育のほか、認知工学に基礎をおくヒューマンインターフェース、言語情報など人間の感性を情報として教育を行うなど、特色ある教育を展開する。

「機械システム工学専攻」

- ・高速交通機関やエネルギー機器などにおける流動解明とエネルギー有効利用、装置の振動の機械エネルギーの解明、それらの機械と人間を含む環境に関連する教育や新素材の開発、材料特定の評価と評価、材料加工、高機能部品や器具の製造・生産システムと最適化といった材料の変換のプロセスに関する教育、機械の設計に不可欠な画像、システムの制御、構造物の防振などの能力を育成する教育を展開する。

「デザイン経営工学専攻」

- ・真に豊かでヒューマンな生活環境をめざして、工学（＝生活機器・製品や生活空間を開発・設計・製造する技術：シーズ）と社会（＝市場や生活者：ニーズ）を融合しながら、生活環境の新たな概念・構想の創出（デザイン）とその具現化の運営管理（マネジメント）にかかわる科学的手法・方法論を多角的・総合的に教育する。

「造形工学専攻」

- ・造形工学、造形文化、建築に関わる理論、デザイン史・技術史、計画・製作理論、工学技術理論などに関する能力を育成する教育を展開する。

「デザイン科学専攻」

- ・既設の造形工学専攻を再編し、地域・産業のブランド化、生活環境を豊かに彩る機器・情報デザイン、映像情報デザインなどのデザイン理論知識と表現技術などに関する能力を育成する教育を展開する。

「建築設計学専攻」

・ 学士課程での建築教育に加えて、国際建築家連合（UIA）推奨基準に準拠した教育プログラムを提供するとともに、建築設計実務家教員を中心に、建築・住環境・都市環境設計の理論・実習、建築生産・構造技術、伝統的生産技術などの能力を育成する教育を展開する。

「先端ファイブ科学専攻」

・ 物理学と化学の基礎の上に、ファイブ科学の基礎を修得させるカリキュラムを履修させ、社会経験を有する学生を中心にファイブ材料を深く理解し、高度な専門性と研究開発能力を培う教育を展開する。

〔博士後期課程〕

(1) 博士前期課程の再編に合わせ、博士前期課程との関係を明確にするとともに円滑な接続を図るため、既設の「機能科学専攻」、「材料科学専攻」、「情報・生産科学専攻」、「先端ファイブ科学専攻」を「生命物質科学専攻」、「設計工学専攻」、「造形科学専攻」、「先端ファイブ科学専攻」に再編・整備する。

(2) 再編・設置する専攻の概要

「生命物質科学専攻」

・ 分子および分子集合体の構造と機能発現メカニズムとの関係、高分子物質・結晶性およびアモルファス無機物質の複雑多様な構造と高次機能発現メカニズムとの関係、生物の集団・個体・組織・細胞・分子の各レベルにおいて発現される生命機能などの研究と教育を展開し、高度な機能をもつ物質・材料の創成・生命機能の解明とその応用に貢献しうる人材の育成を目指す。

「設計工学専攻」

・ 情報科学系と生産システム系2領域から構成されるが、経営・管理・運営といった社会科学的主题に関しても工学的視点からの教育・研究を行う。情報科学に関しては、解析・代数といった数学を基礎として、情報理論、信号理論、コンピュータアーキテクチャへと展開するとともに、パターン処理、画像工学、認知工学からシステム工学に亘る分野の研究を行う。また、生産システムの領域では、電子材料や光による通信工学や回路設計といった電子ハード面の研究や材料・加工・強度・振動・流体・エネルギーといった力学特性に基礎をおく研究を展開する。さらにこの領域の特性として、生産計画、組織運営といった経営や設計を工学的に展開する。

「造形科学専攻」

・ 人間の美的感性の造形的具象化の歴史・理論・方法、及び造形デザインの実践的な理論と応用を、人間が生産した事物の機能と対比させつつ考究する。また、建築・住都市空間の機能の望ましいあり方、設計・創造等を実践するための理論と応用に関する教育研究を行い、高等教育研究機関の教員、研究者ならびに時代をリードする理論を備えたデザイナー・建築家となる人材を育成する。

「先端ファイブ科学専攻」

・ 新材料、新素材の創成等をめざし、機能創成と感性評価をリンクさせた独創的で高度な教育研究を展開し、また、複合融合領域の教育研究を通じ、新産業の創出等に結びつく独創的開発技術者の育成に努める。

教育方法の工夫・特色

学部、学科に所属していた教員を大学院に配置し、教員相互の広汎なインタラクションと協力の下、以下の工夫改善を図る。

〔博士前期課程〕

(1) 専攻内に特定課題型のコースを設けて、修士論文を必修としない実践的教育を行い、社会人対応型コースとして21世紀社会におけるユニバーサル・アクセスを達成する。

(2) 特定課題型のコースにおいては、外部ジュリーを積極的に導入して、単位認定のみならず、学位に見合った能力を認定する。

(3) 専門分野によっては、6年一貫教育を実質的に実現できるよう、学部課程の教育プログラムとの円滑な接続を図る。

(4) 視野を拡大し、応用開発能力を育成するため、複数の研究室に所属することを可能とする制度を導入する。

(5) 平成17年度から実施する「国際基幹技術者養成教育プログラム開発事業」において、海外の協定大学における短期集中講義や演習に大学院生を参画させ、また、現地でのTA/R Aオンザジョブ・トレーニングを実践、高度専門技術者に求められる国際性や実践的理工科系外国語能力を養成する。

〔博士後期課程〕

学内のベンチャー・ラボラトリー、インキュベーションセンター、新設の各種教育研究プロジェクトセンターと連携して、企業や他機関との共同研究への参画を積極的に推進し、実践体験により柔軟で応用力のある研究遂行能力を高める。